

ルカの福音書 2章25~38節 イエスの誕生は世界をどう救うのか？

待降節は、世界がキリストの受肉がこの世に現れるのを待ち望んだあの時を私たちに思い起こさせるものです。また、私たちに今、イエス様の赤子としての御降誕ではなく、王としての再臨を期待して待ち望むことを教えてください。偉大な賛美歌作家チャールズ・ウェスレーが書いたクリスマス賛美歌「久しく待ちにし」は、この考えをよく表しています。来られよ、待ち望まれる主イエスよ あなたの民を解き放つために 恐れや罪から解放するため降誕された あなたの内に安らぎを得ます イスラエルの力となぐさめよ あなたは地上の希望 すべての国民の切なる願い待ち望む喜び。この賛美歌は、イエス様によってのみもたらされる罪からの解放への期待と切望というテーマを浮き彫りにしています。しかし、クリスマスの第三の問い、イエスの誕生はどのように世界を救うのか？、に答えようとする時、今日の聖句で見るように、イエス様がイスラエルから生まれたにもかかわらず、全世界の希望であることを示すつながりをも示しています。これが今日の聖句が取り組む内容です。今朝、聖書を開いてルカによる福音書2章25節から38節を見てください。そこで、二人の人物、シメオンという男性とアンナという女性が、イエス様をメシア、キリストとして世界で初めて認め、その到来が世界に与える意義を悟る場面に出会います。まず、ルカ書2章25節から読み始めましょう。**25 そのとき、エルサレムにシメオンという人がいた。この人は正しい、敬虔な人で、イスラエルが慰められるのを待ち望んでいた。また、聖霊が彼の上におられた。**この人物、シメオンが初めて登場します。彼が神殿の祭司であったとする説もありますが、聖書にはそう記されておらず、そうである必要もありません。彼について知っておくべき最も重要な点は、彼が正しい人であり、神に従い礼拝しようと努めていたことです。さて、この箇所を理解する鍵、そしてイエス様の誕生が世界を救う仕組みを理解する鍵は、**イスラエルが慰められる、**という概念にあります。

アンナの記述の後にも、この箇所の最後の言葉で再び繰り返されます。アンナがエルサレムの贖いを待ち望むすべての人々にイエス様について語るだろうと告げているのです。イスラエルの贖いとは、イスラエルの慰めと同じ概念です。イスラエルの慰めは、旧約聖書の預言に由来します。すなわち、メシア、救い主が現れ、イスラエルを捕囚と心の痛みから救うという預言です。預言者イザヤは、神からの言葉として、イスラエルの民への慰めや安らぎというこの概念を伝える言葉を語っています。**イザヤ書 40章 1-2節「慰めよ、慰めよ、わたしの民を。あなたがたの神は仰せられる 2 エルサレムに優しく語りかけよ。これに呼びかけよ。その苦役は終わり、その咎は償われている、と。そのすべての罪に代えて、二倍のものを主の手から受けている、と。」**イスラエルは神に背きました。彼らは偶像を崇拜し、彼らを民族として造り、エジプトから自由へと導いた神を拒みました。神は彼らを懲らしめるために捕囚へと送られましたが、あらゆる背信の中でも、神は預言者たちを通して、来るべき救い主によって示される愛と恵みのメッセージを与え続けておられました。シメオンはその希望のメッセージを忘れておらず、聖霊の御臨在によって、彼が真に神に従い、この贖いをもたらすメシアに信頼を置いていることは明らかでした。

彼のイスラエルの慰めへの希望は、当時のユダヤ人全体の希望を表しています。少なくとも言葉の上では、イスラエルの宗教指導者も一般民衆も、イスラエルを救うために来るメシアを信じていました。そして私たちが理解すべきは、彼らが来るべきメシアをイスラエルという枠組みでしか見ていなかったということです。シメオンが神の御計画を超自然的により明確に見ている可能性は後ほど見ますが、イスラエルの大多数にとって救いはイスラエルに限定され、ローマからの物理的解放にのみ焦点が当てられ、罪からの霊的解放ではありませんでした。しかしイエス様は、はるかに大きな目的のために来られたのでした！次に、26節と27節で何が起こるかに注目してください。**26 そして、主のキリストを見るまでは決して死を見ることはない、聖霊によって告げられていた。 27シメオンが御霊に導かれて宮に入ると、律法の慣習を守るために、両親が幼子イエスを連れて入って来た。**

さて、ここに聖霊に満たされた敬虔な人物がいます。彼は旧約聖書の預言を信じ、聖霊によって、彼が死ぬ前にイスラエルの慰め、約束されたメシアを見るという確信を与えられていまし

た。ここで非常に具体的に、彼がメシアを見るという点が示されています。なぜなら彼は「主のキリスト」を見るだろうと言っているからです。「キリスト」とはヘブライ語の「メシア」に相当するギリシャ語です。私たちが「イエス・キリスト」と言うとき、それはイエスが旧約聖書に予言された約束のメシアであることを認めることです。そしてキリストの誕生に現れる他のあらゆる事柄と同様に、その誕生と私たちの救いに関する神の計画のすべてが、決して偶然ではないことが示されています。

神の御霊がその日、シメオンを神殿へと導かれました。それはマリアとヨセフがイエスを神殿に連れて来る時に、彼がそこにいるためでした。この時点でイエスは生後約6週間であり、イエスの地上の両親は、出産後40日目に執り行われるべきマリアの清めの儀式のために、イエスを神殿へ連れて行っていったのでした。シメオンの年齢は不明ですが、明らかに高齢であり、彼はメシアを自分の目で見ることになるという約束を固く信じ続けていました。神が約束を果たされ、幼子メシア、すなわちキリストを見、抱くことを許されたと悟った時、彼は29-32節で次のように語りました。 **29「主よ。今こそあなたは、おことばどおり、しもべを安らかに去らせてくださいます。30私の目があなたの御救いを見たからです。31あなたが万民の前に備えられた救いを。32異邦人を照らす啓示の光、御民イスラエルの栄光を。」**

シメオンの言葉に、神の救いの真の御計画が示されています。イスラエルがメシアを通しての救いの理解は、実に限られていました。彼らはその救いを地上のものとして捉え、政治的支配に限定していました。しかし神は、キリストである幼子イエスが世界にもたらす救いについて、はるかに偉大な御計画を持っておられました。イスラエルの慰めを待ち望んでいたシメオンが、**あなたがすべての民の目の前で備えられた救い**を見たと言ったことに注目してください。

神がイエスを通して行っておられることは、イスラエルのためだけではなく、世界のすべての人々に救いを与えるためです。その直後の言葉に注目してください。そこでは、受肉がイスラエルを超えて、受肉がイエス・キリストを通して神が示されることが異邦人にも及ぶことが明らかにされています。神はこう言われます。「**イエスは異邦人への啓示の光であり、あなたの民イスラエルへの栄光の光である。**」旧約聖書における神のイスラエルへの働きは、この民を通して世界に神の栄光が示されるためでした。神がアブラハムに息子を約束した創世記12章2-3節から、イスラエルの始まりにおいて既にこう告げられていました。**創世記 12章2-3節** **そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとする。あなたは祝福となりなさい。3わたしは、あなたを祝福する者を祝福し、あなたを呪う者をのろう。地のすべての部族は、あなたによって祝福される。**

イスラエルの存在は、初めから全地に祝福をもたらすために定められていました。その祝福は、アブラハム、イサク、ヤコブ、ユダ、ダビデ王、そして最終的にはマリアと継父ヨセフに至る系譜から来られたイエス・キリストの賜物によってもたらされました。そしてシメオンが語るこれらの言葉さえも、おそらく預言者イザヤの言葉から引用して組み立てられたものです。イザヤは、神の礼拝を拒み、偶像崇拜が招く破滅を警告されていたイスラエルの民に、イエスの誕生を預言していました。しかしそれらの預言の中には、神がもたらす贖いの約束も含まれていました。そしてこの贖いを可能にするのは神御自身でした。

29節において、少なくともESV訳では明確ではありませんが、この主という語は、神を指す通常のギリシャ語ではありません。むしろ、神の主権と王権を暗示する用語です。シメオンは、神御自身への言及においても、万物の王として君臨する主権者なる神こそが、私たちの贖いの御計画を立てられ、今まさにそれを実行しておられることを認識していたのです。しかし、このユダヤ人の少年が、たとえメシアと認められた者であっても、どうしてユダヤ人だけに留まらず普遍的な影響力を持つことができたのでしょうか？ その影響力は、この箇所たった一つの言葉、すなわち、**救い**、にあります。聖書は、ユダヤ人だけでなく私たちすべてが、聖書が罪と呼ぶもの、そしてその罪に対する罰である死から救われる必要があると述べています。

ローマ人への手紙 3章23節 は言います。すべての人は罪を犯して、神の栄光を受けることができず、そして、ローマ人への手紙 6章23節 はこう告げます。罪の報酬は死です。しかし神の賜物は、私たちの主キリスト・イエスにある永遠のいのちです。

その永遠の命という無償の賜物は、罪の罰である永遠の死からの救いです。ここで明らかになるのは、この罪からの救いが、イエス様と同じ民族の人々だけでなく、すべての人に与えられるということです。そして、幼子イエスとのこの初期の出会いにおいて、シメオンはイエス様がその救いをどのように可能にするかについて、ほのめかしています。33節から35節を見てください。

33 父と母は、幼子について語られる様々なことに驚いた。 34 シメオンは両親を祝福し、母マリアに言った。「ご覧なさい。この子は、イスラエルの多くの人が倒れたり立ち上がったたりするために定められ、また、人々の反対にあうしるしとして定められています。 35 あなた自身の心さえも、剣が刺し貫くことになります。それは多くの人の心のうちの思いが、あらわになるためです。」

この見知らぬ老人がイエス様を手に抱き、預言的な言葉を語る様子を、マリアとヨセフはどう思ったか想像できますか。彼らは頭ではイエス様が特別な存在だと理解していたかもしれませんが、処女懐胎が告げられた瞬間から、神が彼らに授けたこの子は他のどの子供とも違うと、神は繰り返し示されていたのです。この預言はその理由を示しています。シメオンはマリアに、どんな母親にとっても生まれたばかりの子について聞くのが辛い言葉を告げますが、それらはすべて十字架上の犠牲的な死を指し示しています。そうです。イエス様はイスラエルの地でユダヤ人として生まれましたが、十字架にかけられることで、ユダヤ人であれ異邦人であれ、悔い改めて彼を信じる世界中のすべての罪人が、その罪から救われるようにされたのです。イエス様の誕生がどうして世界を救うのでしょうか？それは十字架へと導くからです。そこで、罪のない神の御子が世の罪を自ら負い、私たちの代わりに私たちの罰を受けられたのです。**ペテロの手紙 第一 2章 24節 キリストは自ら十字架の上で、私たちの罪をその身に負われた。それは、私たちが罪を離れ、義のために生きるため。その打ち傷のゆえに、あなたがたは癒やされた。**

ここでシメオンの言葉は十字架に言及していませんが、それを指し示しています。イエス様は宗教指導者たちや、神に到達する方法に関する彼らの律法主義的な見解に反対されます。そして、彼は、社会の頂点に立つ者ではない十二人の男たちを弟子として育て上げられます。多くの人々がイエス様を受け入れ従う一方で、さらに多くの人々が彼に反対し、最終的には彼の死を求めることになります。そしてマリアは直接、剣が魂を貫くかのように心が痛むと告げられます。なぜマリアだけに語りかけるのでしょうか？十字架の下にはヨセフの姿はなく、イエス様は十字架から弟子ヨハネに、母マリアの面倒を見るよう命じられます。このことから、イエス様が十字架にかけられた時にはヨセフは既に亡くなっていたと考えられ、あの悲しみに直面することはなかったのです。結局のところ、誰であれイエス様が直面した者たちには、彼に対する真の信仰があるかどうか、シメオンのように自称するメシアを実際に信じているかが示されました。しかしこの箇所は結末で語られるエルサレムの贖いとイスラエルの慰めは、実は二人の人物、シメオンとアンナという名の女性に関わります。アンナもまた、メシアを見るまで命を保たれるという神の祝福を受けたのでした。36-38節を見てください。 **36 また、アシェル族のペヌエルの娘で、アンナという女預言者がいた。この人は非常に年をとっていた。処女の時代の後、七年間夫とともに暮らしたが、 37 やもめとなり、八十四歳になっていた。彼女は宮を離れず、断食と祈りをもって、夜も昼も神に仕えていた。 38 ちょうどそのとき彼女も近寄って来て、神に感謝をささげ、エルサレムの贖いを待ち望んでいたすべての人に、この幼子のことを語った。**

アンナは若くして未亡人となり、残りの生涯を神に仕えることにのみ献げました。彼女は預言者と呼ばれ、祈りと断食に費やした時間ゆえに、人々に神からのメッセージを伝えることができたのかもしれませんが。彼女がどれほど多くの人々を祝福してきたことかは定かではありませんが、彼女の熱心な祈りはきっと多くの子供たちの癒し、結婚を祝福し、苦しみを終わらせ、悔い改めをもって神に心を向けさせたことでしょう。ここでは、彼女が神から、メシアを見るまで死なな

い、と告げられていたとは具体的に記されていませんが、神がシメオンと同様に彼女をイエス様のメシアとしての正体を証しする者として用いる意図があったことは明らかです。彼女の言葉は預言的であり、イエス様がイスラエルの贖いのために来られたことをすべての人に告げています。彼女はイエス様がメシアであると認め、イスラエルに贖いを、そして彼を通して全世界に贖いを与えるために遣わされた神を賛美しました。イエス様がメシアであるという彼女の証言は、イエス様の正体に対する最終的な預言的印となります。しかし、この箇所両端でイエス様がイスラエルのメシアとして言及されていることは、イエス様がすべての人のメシアであるという主旨を、より力強く指し示しています。シメオンの中間の言葉は、聖書のページと時間そのものを超えて響き渡ります。イエス様は救いのために来られたのです。すべての民のために。彼を信じて罪からの救いを得る者たちのために。どのようにして？ すべての民のために…十字架上の彼の死を通して。しかし最後に、この二人の人たちについて一言付け加えたいと思います。彼らはイエス様に会い、約束された贖いを見るために何年も、何十年も待ち続けました。そしておそらく、贖いをもたらす行為、すなわち十字架上のイエス様の死を目撃することはなかったでしょう。代わりに、彼らが垣間見たのは、彼らのメシア、救い主として来られた赤ん坊の姿だけでした。しかし、それで十分でした。神のタイミングは完璧でした。神は、彼らが何十年も待ち続け、見守り続け、神の約束が果たされることを信じ続けたことが、彼らが置かれた場所で何年も忠実に奉仕した後に起こることを知っておられました。神は、御自分に仕えることが即座に得られる喜びや満足感をもたらすと約束されたことはありません。シメオンやアンナがイエス様を体験したように、キリストの栄光が毎日はっきりと見える日が続くとおっしゃったことでもあります。しかし約束されているのは、いつの日か私たちの信仰が彼らのように確かなものとなり、救い主を目にする日が来るとのことです。**ヨハネの手紙 第一 3章2節 愛する者たち、私たちは今すでに神の子どもです。やがてどのようなになるのか、まだ明らかにされていません。しかし、私たちは、キリストが現れたときに、キリストに似た者になることは知っています。キリストをありのままに見るからです。**

いつの日か、私たちはイエス様を罪からの救い主として、あるいは罪の裁き主として見るようになります。幼子としてではなく、私たちの代わりに死んで私たちを贖い、御自身の民としてくださった復活の王として見るのです。祈りましょう。

Luke 2:25-38 How does Jesus's birth save the world?

Advent is supposed to remind us of the time of waiting that was experienced while the world waited on Christ's incarnation to be revealed to the world. It also reminds us that we wait now expectantly, not for his coming as a baby, but Jesus's return as a king. There is a Christmas hymn written by the great hymn writer, Charles Wesley, called "Come thou long expected Jesus," that captures well this idea. **The words are: Come, thou long expected Jesus, born to set thy people free; from our fears and sins release us, let us find our rest in thee. Israel's strength and consolation, hope of all the earth thou art; dear desire of every nation, joy of every longing heart.** This hymn brings out the theme of expectation and longing for freedom from our sin that only comes with Jesus. But as we will see in our passage today, it also shows the connection of Jesus being born from Israel, but being the hope for all the world. This is what our passage deals with today as we try to answer a third question of Christmas, **"How does Jesus's birth save the world?"** I want us to turn in our Bibles today to Luke 2:25-38, where we meet two of the first people in the world, a man named Simeon and a woman named Anna, to recognize Jesus as the Messiah, the Christ, and the significance that his coming would have for the the world.

Let's begin reading at verse 25 of Luke 2. **²⁵ Now there was a man in Jerusalem, whose name was Simeon, and this man was righteous and devout, waiting for the consolation of Israel, and the Holy Spirit was upon him.** We are first introduced to this man, Simeon. Some people have proposed that he was a priest in the temple, but we are not told that, and there is no need for him to be. The primary thing we need to know about him is that he is righteous, and seeking to follow God and worship him. Now, the key to understanding this passage and the key to understanding how Jesus's birth saves the world is in this idea of **"consolation of Israel."** It comes back around after the account of Anna as well in the final words of this passage that tell us that Anna would speak of Jesus... **to all who were waiting for the redemption of Jerusalem.** The redemption of Israel is the same idea as the consolation of Israel. The consolation of Israel comes from Old Testament prophecy that there would be a Messiah, a Savior, that would come and save Israel from captivity and heartache. The prophet Isaiah speaks words from God that contain this idea of consolation or comfort to the nation of Israel. **Isaiah 40:1-2 says, Comfort, comfort my people, says your God. ² Speak tenderly to Jerusalem, and cry to her that her warfare is ended, that her iniquity is pardoned, that she has received from the LORD's hand double for all her sins.** Israel had failed God. They had worshipped idols and rejected the God who made them a nation and brought them out of Egypt to freedom. God had sent them into captivity to punish them, but through all of their rebellion, God continues to give them through the prophets a message of love and grace that he will show them through a coming Savior. Simeon had not forgotten that message of hope, and it was clear by the presence of the Holy Spirit that he was truly following God and putting his trust in this Messiah who would bring this redemption. His hope in the consolation of Israel represents the hope of all of the Jewish people at that time. At least in their words, the religious leaders of Israel and the regular people believed in a coming Messiah, who was coming to save Israel. And what we need to understand is that they only saw the coming Messiah in terms of Israel. We will see in a minute that Simeon may supernaturally see more clearly God's plan, but for most of Israel redemption would be limited to Israel and even focused on the physical deliverance from Rome, not spiritual deliverance from sin. But Jesus came for so much more!

Notice what happens next in verses 26 and 27. ²⁶ And it had been revealed to him by the Holy Spirit that he would not see death before he had seen the *Lord's Christ*. ²⁷ And he came in the Spirit into the temple, and when the parents brought in the child Jesus, to do for him according to the custom of the Law, ²⁸ he took him up in his arms and blessed God and said... So, here is this Holy Spirit filled Godly man who believed the prophecies in the Old Testament, and had been assured by the Holy Spirit that he would see the consolation of Israel, this promised Messiah before his death. Now it gets very specific that he would see the Messiah, because he says he would see the Lord's Christ. Christ is the Greek word for the Hebrew Messiah. When we say Jesus Christ, we are acknowledging that Jesus is the promised Messiah foretold in the Old Testament. And as with everything else we see in the birth of Christ, we see that nothing about the birth and God's plan for our salvation is random. God's Spirit led Simeon into the temple on that day, so that he would be there when Mary and Joseph brought Jesus to the temple. At this point, Jesus would have been about 6 weeks old, and Jesus's earthly parents were taking him to the temple for the required ceremony of purification for Mary which was to take place 40 days after birth. We have no idea how old Simeon was, but apparently he was quite elderly and continuing to cling to this promise to see the Messiah with his own eyes. When he realized that God had kept his promise and allowed him to see and hold the baby Messiah, the Christ, he said the following words in verses 29-32, ²⁹ "Lord, now you are letting your servant depart in peace, according to your word; ³⁰ for my eyes have seen your *salvation* ³¹ *that you have prepared in the presence of all peoples*, ³² a light for revelation to the Gentiles, and for glory to your people Israel."

In Simeon's words, we see God's true plan for salvation. Israel's understanding of salvation through a Messiah was really limited. They saw that salvation in earthly terms and limited to political rule. But God had a far great plan for the salvation that Jesus, the Christ child, would bring to the world. Notice that Simeon, who was looking for the consolation of Israel says that he has seen "*salvation that you have prepared in the presence of ALL PEOPLES*." What God is doing through Jesus is not just for Israel, it is going to make salvation available to all people in the world. Notice his very next statement that makes it clear that the incarnation extends beyond Israel to reveal God through Jesus Christ to the Gentiles as well. He says that Jesus is *a light for revelation to the Gentiles, and for glory to your people Israel*." The entire point of God's work among Israel in the Old Testament was for the world to see his glory revealed in this nation. From the very beginning of Israel as God announced a son to Abraham, he told him in [Genesis 12:2-3](#) *2 And I will make of you a great nation, and I will bless you and make your name great, so that you will be a blessing. 3 I will bless those who bless you, and him who dishonors you I will curse, and in you all the families of the earth shall be blessed.*" From the very beginning, the existence of Israel was meant to bring a blessing to the entire earth. That blessing came by the gift of Jesus Christ who came from the line of Abraham, Isaac, Jacob, Judah, King David, and finally Mary and even his step-dad Joseph. And even these words that Simeon speaks are likely put together from quotes of the prophet Isaiah who was prophesying the birth of Jesus to a people of Israel who had rejected the worship of God and were being warned of the destruction their idolatry would bring. Yet in those prophecies, were also promises of redemption that God would bring about – and it was God who would make possible this redemption. In verse 29, at least in the English Standard Version, it is not entirely clear, but that term, Lord, is not the normal Greek word for Lord referring to God. Instead, it is a term that infers God's sovereignty and kingship. Simeon recognized even in his reference to God himself that it

was the SOVEREIGN God, in his kingship over everything, that had planned and was now executing this plan for our redemption.

But how was this Jewish boy, even one recognized as the Messiah going to have a universal and not just a Jewish impact? The impact is in that one word in our passage, **salvation**. The Bible says that all of us not just Jews need to be saved from what the Bible calls sin and penalty for that sin – death. **Romans 3:23 says, 23 for all have sinned and fall short of the glory of God...** And **Romans 6:23** tells us that **...the wages of sin is death, but the free gift of God is eternal life in Christ Jesus our Lord**. That free gift of eternal life is salvation from the penalty of sin, which is eternal death. What becomes clear in this is that this salvation that is offered from sin will be available to all, not just those of Jesus's own ethnicity. And in this early interaction with Jesus as a baby by Simeon, we get a hint at how Jesus will make that salvation possible. Look at verses 33-35. **³³ And his father and his mother marveled at what was said about him. ³⁴ And Simeon blessed them and said to Mary his mother, "Behold, this child is appointed for the fall and rising of many in Israel, and for a sign that is opposed ³⁵ (and a sword will pierce through your own soul also), so that thoughts from many hearts may be revealed."** Can you imagine what Mary and Joseph thought when this random old man takes up Jesus in his hands and speaks prophetic words about him? While they may have known in their heads that Jesus was special, God showed them over and over from the moment of announcing his virgin conception that this boy God had given them to parent was unique among all children. The prophecy here would show why. Simeon says some difficult things for any mother to hear about their newborn baby to Mary, but they are all pointing to his sacrificial death on the cross. This was the answer to sin for the world. Yes, Jesus was born Jewish in the land of Israel, but he would go to the cross so that all sinners, Jew or Gentile, all peoples of the world who repent and believe in him could be saved from their sin. How does Jesus's birth save the world? It leads to the cross, where the sinless Son of God bore the sin of the world on himself and took our place and our punishment. **1Peter 2:24 tells us, He himself bore our sins in his body on the tree, that we might die to sin and live to righteousness. By his wounds you have been healed.**

And Simeon's words here while not mentioning a cross, point to it. Jesus would oppose the religious leaders and their legalistic view of how to reach God, but he would raise up 12 men who were not at the top of society's ladder in order to be his disciples. While many would accept and follow him, many more would oppose him and ultimately call for his death. And Mary is told directly that her heart would be grieved as though a sword pierced her soul. Why address only Mary? At the cross, there is no sign of Joseph and Jesus tells his disciple John, from the cross, to now take care of his mother Mary. Because of that, we believe that Joseph had already died by the time Jesus went to the cross, so he would not have faced that grief. Ultimately, whoever Jesus confronted, it showed whether they had true faith in him or not, it showed whether they actually believed in the Messiah they claimed to believe in as Simeon did. But the book ends of this passage talking about the redemption of Jerusalem and the consolation of Israel actually involve two people, Simeon and a woman named Anna, who God also blessed with life until seeing the Messiah. Look at verses 36-38. **³⁶ And there was a prophetess, Anna, the daughter of Phanuel, of the tribe of Asher. She was advanced in years, having lived with her husband seven years from when she was a virgin, ³⁷ and then as a widow until she was eighty-four. She did not depart from the temple, worshiping with fasting**

and prayer night and day. ³⁸ And coming up at that very hour she began to give thanks to God and to speak of him to all who were waiting for the redemption of Jerusalem.

Anna had been widowed very early in her life, and spent the rest of her life devoted only to serving God. She was called a prophetess, and perhaps she was able to give people messages from God due to the time she spent in prayer and fasting. Who knows how many people she had blessed over the years as she prayed earnestly to see their children healed, their marriages blessed, their suffering ended, their hearts to turn to God in repentance? We are not told specifically here that she had been told by God she would not die until seeing the Messiah, but it seems clear that God intended to use her as a witness to Jesus's identity as the Messiah just as he had Simeon. Her words were prophetic if in no other way, they told everyone that Jesus had come for the redemption of Israel. She recognized that Jesus was the Messiah and praised God for sending him to offer redemption to Israel, and through him, also the world. Her testimony to Jesus as the Messiah puts a final prophetic sign on who Jesus was, but having this reference to Jesus as Israel's Messiah at both ends of the passage points even more loudly to the main point that Jesus is everyone's Messiah. Simeon's words in the middle ring loudly across the pages of scripture and time itself that Jesus came for the **salvation...of all peoples**, who believe in him for salvation from their sins. How is it for all peoples...through his death on the cross.

But I want to end with one final note of these two people – they waited years, decades to meet Jesus and see the redemption promised. And really, they likely didn't see the action that provided the redemption, Jesus's death on the cross. Instead, they simply got a glimpse of the baby, who came as their Messiah, their Savior. But this was enough. God's timing was perfect. God knew that their decades of waiting and watching and trusting that God would keep his word, would happen after years of faithful ministry where they were at. God never promises that serving him will come with instant gratification. He never says that everyday will be a day where the glory of Christ is very clear as we see him in a similar way to Simeon and Anna experiencing Jesus. But we are promised that one day, our faith, like theirs, will become sight, and we will see our Savior. **1John 3:2 says, 2 Beloved, we are God's children now, and what we will be has not yet appeared; but we know that when he appears we shall be like him, because we shall see him as he is.** One day we will see Jesus as our Savior from our sins or as the Judge of our sin. We won't see him as a baby, but our resurrected king, who died in our place to redeem us as his very own people. Let's pray.